新大学構想会議 ヒアリングシート（様式）　　工学域

資料8－2

<table>
<tr><th>説明項目</th><th colspan="9">説明内容</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>①学域のミッション</td><td colspan="9">〇各学域のパンフレット（2012学域案内）により説明
・高い専門性と幅広い教養を培い，世界の科学技術の発展を担う技術者を育成する.
・国際的なコミュニケーション能力を身に着け，国際性，人間性，倫理観豊かな人材を育成する.
・実習などの実践教育，キャリア教育，インターンシップなどを通じて，地域や社会に貢献できる人材を育成する.</td><td>従来の工学部の理念を継承しつつ，新しい工学域としてのミッションを担う.</td></tr>
<tr><td rowspan="4">②他大学との比較</td><td colspan="9">〇他大学との比較</td><td></td></tr>
<tr><td>区　　分</td><td></td><td colspan="4">関西の大学</td><td colspan="3">全国の大学</td><td rowspan="9"></td></tr>
<tr><td>大学名</td><td>大阪府立大学</td><td>大阪市立大学</td><td>大阪大学</td><td>神戸大学</td><td>京都工芸繊維大学</td><td>東京工業大学</td><td>東北大学</td><td>九州大学</td></tr>
<tr><td>学域・学部名</td><td>工学域</td><td>工学部</td><td>工学部</td><td>工学部</td><td>工学部</td><td>第3～6類</td><td>工学部</td><td>工学部</td></tr>
<tr><td rowspan="7">学類・学科名</td><td>電気電子系学類</td><td>機械工学科</td><td>応用自然科学科</td><td>建築学科</td><td>応用生物学</td><td>応用化学系</td><td>機械知能・航空工学</td><td>建築</td></tr>
<tr><td>物質化学系学類</td><td>電子・物理工学科</td><td>応用理工学科</td><td>市民工学科</td><td>応用化学系</td><td>機械工学系</td><td>情報知能システム</td><td>電気情報工学</td></tr>
<tr><td>機械系学類</td><td>情報工学科</td><td>電子情報工学科</td><td>電気電子</td><td>電子システム工学</td><td>電気・電子系</td><td>化学・バイオ工学</td><td>物質化学工学</td></tr>
<tr><td></td><td>化学バイオ工学科</td><td>環境・エネルギー工学科</td><td>工学科</td><td>情報工学</td><td>建設工学系</td><td>材料科学総合</td><td>地球環境工学</td></tr>
<tr><td></td><td>建築学科</td><td>地球総合工学科</td><td>機械工学科</td><td>機械システム工学</td><td></td><td>建築・社会環境工学</td><td>エネルギー科学</td></tr>
<tr><td></td><td>都市学科</td><td></td><td>応用化学科</td><td>デザイン経営工学</td><td></td><td></td><td>機械航空工学</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>情報知能工学科</td><td>造形工学</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>他大学と比較した本学の教育に係る強み、弱み、課題等</td><td colspan="8">本学工学部の博士前期課程への進学率は83.6%（平成23年度卒），就職率は98.5%（平成23年度卒）である．就職率は，上記の表の大学の中でも最も高く，卒業生，修了生のレベルが社会で高く評価されていることを示している．教育プログラムの充実や基礎から専門までの丁寧な指導の成果と考えている.
工学域（工学部）の入試では，毎年，高い倍率を確保しているが，中期日程で実施しているので府大を第1志望校としていない学生が多い．そのために新入生に対して勉学や研究の動機づけを行う導入教育が特に重要である．1年次に学類基盤科目を設置し，工学域での教育や研究に対する説明，紹介などを行なっている.</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="9">〇特筆すべき教育内容やその成果（具体的に）
入試は広い学問分野を基礎とした教育組織である学類単位で募集を行い，課程配属の時期を2年に設定し，各学問分野に共通する知識を修得した上で専攻分野を決定する経過選択型の進路選択としている．各教育課程は，学類の教育目的，教育目標を達成する学士課程教育を行うと当時に，それぞれの課程において専門分野の特色を生かした教育を行う.
機械、電気・情報、物質・化学系の主要課程に加え、航空宇宙工学と海洋システム工学に関する教育・研究を共に実施している全国的にもユニークな課程を有し，既に工学部としては関連分野で活躍している多数の人材を輩出している.
キヤリア教育の一環として「エンジニアのためのキヤリアデザイン」や工学に特化した英語の表現能力・理解能力の養成を目的とした英語科目を設けている.</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">③学域に係る現在の課題や問題点</td><td colspan="9">〇学域における課題や問題点の認識
学類入試の結果，課程への振り分けを2年次進級時に行うが，適切な振り分けをする必要がある.</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="9">〇法人本部や事務組織への要望等
学類科目，新科目に対応した規模の講義室が不足しており，講義室の割り振り，時間割の作成が難しくなっている。</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">④学域に係る今後の取組みの方向性</td><td colspan="9">〇大阪の公立大学として、今後重点的に取り組む教育分野や新しい展開
学際的教育，コミュニケーション能力の向上，基礎学力の強化などは継続して取り組む．コミュニケーション能力の向上については，英語以前の問題として，自分の考えを整理してうまく相手に伝える能力の育成にも努める.</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="9">〇大阪の成長戦略との関わりを有すると思われる教育内容・人材育成等
エンジニアのためのキャリア教育，地域企業へのインターンシップあるいは地域企業見学などを着実に推進し，地域企業および社会に貢献できる人材を育成する．また，英語を自ら学ぶモチベーションの育成に努めるとともに英語での教育の充実により，国際的に活躍できる人材を育成する.
アジア諸国からの優秀な外国人留学生の確保をさらに推進し，我が国および現地企業あるいは教育研究機関で活躍できる人材，我が国とアジア諸国の橋渡しのできる人材を育成する.</td><td></td></tr>
<tr><td>⑤その他</td><td colspan="9">工学域ではH24年度中期日程入試で初めて地方入試（名古屋会場）を実施し，受験生の確保に大きな効果があったことから今後も継続して実施する．また，学域体制は始まったばかりで，今後いろいろな課題が出てくると思われる．それらを踏まえてさらなる改善につなげていく必要がある.</td><td></td></tr>
</table>